

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上	写真・後藤
山行NO. 1969		
日時	2022年2月12日(土) 晴れのち曇り	
山域	富士山 須山口 ニツ塚上塚 1929m	
コース	長泉 6:30-須山口駐車場スタート 8:10-ニツ塚上塚にて昼食 10:49-下山開始 11:40-二合 1810m-1915m(+105m) 12:45-幕岩分岐 1690m 13:26-14:16 駐車場ゴール-長泉着 15:30 (反省会なし)	
累計標高差	上り・下り 須山口 1359m~上塚 1929m=570m (+105m=675m)	
藪漕度	上り・下り なし	
難易度	非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
<b>深い雪と美しく化粧した富士山</b>		
参加者	後藤、勝又、井上=3名	
ど〜が〜	<a href="http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-1.mp4">http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-1.mp4</a>	

2月10日(木)に大雪が降り、御殿場に住んでいる会社の同僚は長泉の会社には出てこられなかった。今回は山スキーとっていたら、雪中行軍だった。

富士山は、真っ白にコーティングされた。最近では雪があっても地肌が見えてマーブルチョコのようだったが、今日は完全にホワイトチョコでおおわれているようだ。別に、バレンタインデーが近いからこう思ったのではない。



ワカンジキ

御殿場口の洞門の駐車場はすでにいっぱい、その前後の路上や隙間にもきっちり駐車している。1月29日にみた長野県のナンバーの白い軽トラはなかった。遭難者が見つかったという新聞記事はないようだ。撤去されたか、例のハイエナ業者にたかられて跡形もなくなったか。

駐車できる場所を求めて須山口の方へ車を走らせる。いつも駐車していた沢の橋近くの場所は、土木工事で使われていて入れない。須走口も雪で駐車できず、その先も道路は除雪されているが道のわきに車を停めるスペースはない。しょうがないので、須山口に戻り道際の雪かきをして道路の



白線より外に駐車した。

当然、誰もまだ歩いておらず踏みあとはないのでワカンをつけてのラッセルとなる。ワカンは10年以上使っていない。ワカンの紐の付け方が良くわからず、初めは前後ろ逆につけようとしたが反対にしたら取り付けられた。

登山道は雪がわずかに周りよりくぼんでいる。道を歩いてもつまらないということで、右側の林に登り、林間を歩く。鹿の足跡があり、それに沿って進む。鹿のラッセルを使わせてもらった。といっても、しょせん鹿の小さな足のラッセルなので、足は毎度しっかりと雪に埋まり、足を引き抜く作業の連続だ。しかし、鹿と歩いているような不思議な気持になる。鹿の足跡は、あっちこちに動き、樹木の周りをぐるりと回り、木の幹のコケを食べているようである。

しばらくすると水ヶ塚からの登山道と合流し、そこからは大量の足跡があり、進むスピードが格段に速くなる。ワカンはつけていても歩きにくいわけではないので外さなかった。そのまま進みニツ塚への分岐にでた。当初の予定では左側のコースで宝永火口、御殿庭に向かい2350m峰に行く計画だったが、そっちは誰も行ってないようで足跡がない。

すでにそこまでの雪中行軍で時間がかかっており、計画通りに行くとさらに時間がかかりそうなので、行先を変更しニツ塚を目指すことにした。ここで後ろから二人の登山者が来て、一人は抜いていき、もう一人はそのまま後ろを歩いていた。樹林帯を越えると真っ白な富士山が現れる。地表の木は先端だけ雪から頭を出している。雪で覆われた地形はなめらかな曲線を描く。

上塚の下の分岐で昔のタレントの「なすび」によく似たひげが伸びた男が下塚の方から上がってきた。大きな荷物はテントが入っており、昨夜はテン泊だったそうだ。上高地から富士山に来たそ



素晴らしい世界

うだ。上塚にはすでに上ったので、宝永第3火口に行くという。スノーシューだ。四国遍路も9年位前にやったそう。なぜか四国遍路の話が盛り上がる。

上塚を見上げると6人が登っている。ここでは周囲360度全て真っ白である。空は青く、風はない。飛行機が飛んでいく。上塚に上るとき、後藤さんが先行し、私と勝又さんが登るシーンの動画を撮影した。

上塚頂上には男性一人が休憩していた。先に登っていた人たちは早々に下り、下塚にでも行ったのだろうか。まだ11時にもなっていないが、上塚頂上でめずらしく風がないので、ここで昼食とした。

なべ焼きうどんの準備をする。お湯を入れてコンロに火をつける時点で、なんと火がつかない。コンロが濡れたためか、燃料切れか。仕方なく、後藤さんが食べ終わってからコンロを借りることにした。後藤さんは、勝又さんの勤め先のマックスバリューでしか売っていないという400円の八丁味噌の鍋焼きうどん。私はウエルシアの200円の餅入りうどんである。勝又さんはいつものようにインスタントカップ麺。さすがに熱々おいしい。

食べ終わるころ、テレマークスキーの男性が登ってきた。どこから？と聞くとなんと長泉。大体、関東から来る人ばかりなので、珍しい。後から奥さんが登ってきた。テレマークスキーは奥さんが先に始めたらしい。聞くと、納米里近くの藤原さん51歳。学年は私の一つ下。麗峰山の会を勧めたがあまり乗り気ではない。以前に山の会に入っていたがやめたそう。沢登りをよくやり、ピークハントには興味がなく、岩登りをやりたいそう。



「なすび」さん



上塚



鍋焼きうどん



藤原ご夫妻



白井さん

話は尽きないので切り上げて下山開始。下りでも動画撮影をする。撮影する後藤さんも、撮られる私たちも無言であることが求められる。あっちだ、こっちだと無言で手の指示が入る。「カット」も入らず、いつまで撮影するのかと振り向くと、とっくに終わって歩いていた。

上塚を下ったところで、革靴にアイゼンを着けている男性がいて、後藤さんを待っている間に聞くと、その人は白井源三さんといい3日後の火曜日に80歳になる記念に富士山に来たとのこと。山溪の神奈川県山の分県登山ガイドの執筆者の一人。パタゴニアにも行ったことのある山岳写



三辻に向かう

真家。写真集もだしているらしい。履いているゴローの靴のかかると金具がついており、ワンタッチアイゼン用かと聞くとスキー用とのこと。ゴローの靴でスキーをするらしい。足首がフリーなので相当難しいようだ。

スキー用ブーツを履いた時になんと楽に滑ることができると思ったと。また、山に出る時の朝は起きるのが嫌で、雨が降らないかとか、行かないでよい理由を考えると書いていた。どうやらみんな朝は同じようだ。

後藤さんは常々80歳までは山に行くとおっしゃっているが、こうやって80歳で現役をやっている人と会うと、80歳はどうやら通過点になりそうな気がする。さらに、御殿場口洞門の駐車場が2月いっぱい閉鎖するとの情報を聞いた。自分たちの遊び場に困ると書いていた。この情報が本当なら、私たちもこれから富士山でスキーをするのに困ることになる。

午後になると、いつものように雲が現れ風が吹いてくる。やがて富士山山頂はお隠れになった。午前の上塚頂上について昼食をとったのは大正解だった。

この分岐から登って来た道を下るにはまだ時間も早いので、先の「なすび」さんが作ったトレースで御殿庭方面の三辻（ミツジ）へ向かうことにした。「なすび」さんのスノーシューの足跡だけなので、アイゼンを履いただけの靴では雪に沈み込み、ラッセルに近い。

分岐から90mほど登ったころ、どうやら目的のコースから右にそれ、余分に登っていることが分かった。1915mまで登って左の林の方向に方向を変えて下り始めた。当然、全く足跡のないバージンスノーなので、完全にラッセルとなった。それでも下りなので、上りほどのしんどさはない。途

中からスキーで下った跡が見られた。スキーの跡を歩いてもスノーシューと同じで、圧雪になっていないので足がずぼずぼと沈む。雪は結構深いので足を雪から引き抜くのは大変だ。樹林帯に入るといつもある登山道はどこか分からず、木の枝の赤テープを探して下る方向を確認する。

そして、朝、ニツ塚に目標を変更した分岐に出た。ここからは雪は十分に踏まれていて、雪のため段差がないので夏よりお気楽に歩ける。

駐車した場所には、他に2台車が停まっていた。奥の方まで雪かきをして入ってきたようだ。今回は、深い雪と美しく化粧した富士山を存分に楽しんだ。

以上

